

紙上で Museum on the newspaper 博物館

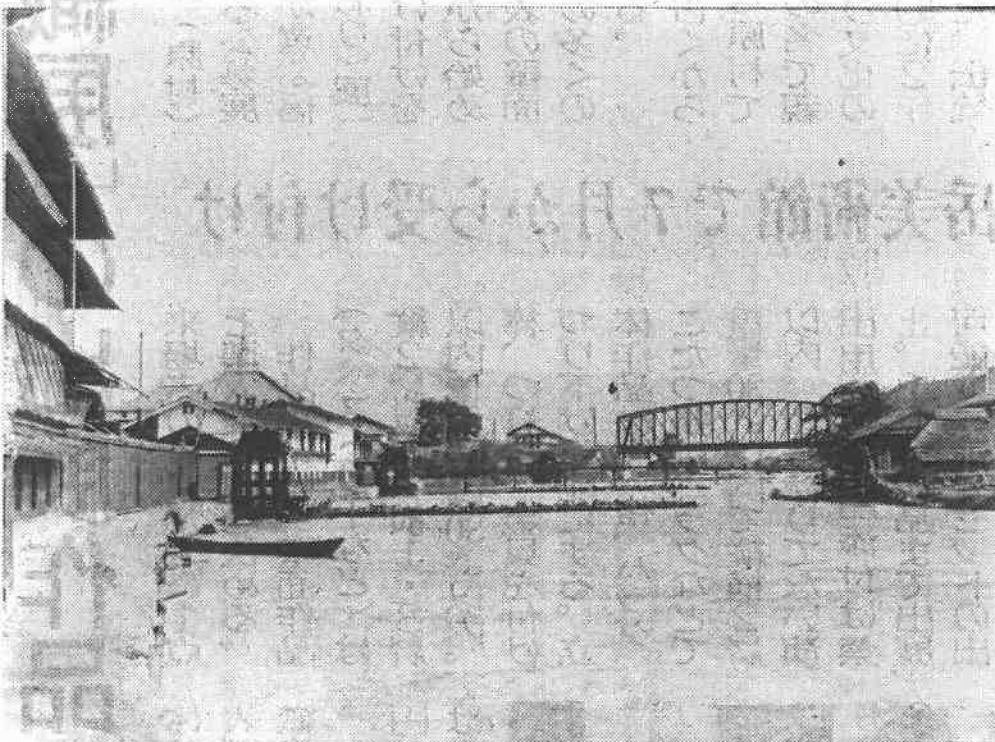
運ぶ。 vol.5

-蚕糸業を支えたモノの流れ-

企画展から



シルクファクトリア



水を運ぶ

天竜川に立ち並ぶ水車

明治 後期

製糸工場の糸枠を回す動力と製糸用水の確保のために、天竜川河畔には、その水を求めて水車を配した多くの製糸工場が立ち並びました。1878(明治11)年、垣外製糸場の片倉兼太郎が水車利用を始めています。水は製糸業には欠かせない大切なものでした。

写真左側から中央にかけて4カ所に水車が設置されています。対岸の右側にも1カ所の水車が見えます。水車の直径は大きなもので6尺もありました。そして水車には、水流を水車の方に導く湛(たたえ)水車から川の中央に一直線にのびる堰・せき)が必要で、湛の隙間を調整して水車の水量・水力を加減します。この湛は長いもので、1本が40尺にも及びました。しかし、天竜川は諏訪湖の水の唯一の出口です。湛は天竜川の流水の妨げにもなり、雨量が多くなると諏訪湖対岸の諏訪方面の水位が上がると、水害を起こす原因にもなりました。



オンライン授業を行う看護専門学校

きないという前例のない学校運営に頭を悩ませている。 向でのやりとりが可能なため、生徒から講義

自宅で

運

信学会東端

信学会東端

は、新型コロナウイルス感染拡大による自粛中の試み、自宅でする運理の作り方を記事で園ホームで配信しているもたちに自宅で時間を過ごして

心をつ

負けない

